



目次

- ◆事務局からのお知らせなど 1
 - eBird キャンペーンと、関連イベントのご報告 1
 - 「鳥ゼミ」のご案内 2
 - オンラインセミナー「風力発電による野鳥への

- 影響および環境影響評価法とは」のご案内 3
- 会員数 3
- 令和5年度第3回評議員会（臨時）議事録 5

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護室より

■eBird キャンペーンと、関連イベントのご報告

●キャンペーン「バードウォッチングウィーク！身近な水鳥をeBirdに投稿しよう」の結果

11月1～7日のバードウォッチングウィークにキャンペーン「バードウォッチングウィーク！身近な水鳥をeBirdに投稿しよう」を実施しました。期間中、好きな時にバードウォッチングをして、その結果をeBirdに投稿いただき、全国から昨年を上回る368名の参加があり、1,511件のチェックリストが投稿されました。

都道府県ごとのチェックリストの投稿数は、東京都が341件で最も多く、次いで北海道、神奈川県、千葉県、京都府の順になりました。（表1）。全国で確認された種は合計282種（※）で、昨年の264種を上回りました。都道府県別の観察種数では北海道が131種で最も多く、続いて東京都が105種、石川県91種、宮城県と神奈川県90種の順となりました（表2）。

記録が多かった種ベスト10は、上位から順にヒヨドリ、ハシブトガラス、スズメ、ハクセキレイ、カルガモと身近な野鳥が中心でしたが（表3）、100件以上投稿された種を見ると、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、ホシハジロ、ハシビロガモなどこの季節に渡って来るカモ類や、ジョウビタキ、ツグミなども報告されました。

※種数はeBirdで使用されている分類による

表1. 都道府県別チェックリスト投稿数ベスト10

	都道府県	チェックリスト数
1	東京都	341
2	北海道	151
3	神奈川県	120
4	千葉県	95

5	京都府	75
6	愛知県	65
7	宮城県	50
8	埼玉県	48
9	兵庫県	44
10	奈良県	41

表2. 都道府県別観察種数ベスト10

	都道府県	種数
1	北海道	131
2	東京都	105
3	石川県	91
4	宮城県	90
4	神奈川県	90
6	千葉県	89
7	沖縄県	86
8	滋賀県	85
9	埼玉県	83
10	奈良県	74

表3. 記録が多かった種ベスト10

	種名	チェックリスト数
1	ヒヨドリ	870
2	ハシブトガラス	673
3	スズメ	595
4	ハクセキレイ	589
5	カルガモ	551

6	アオサギ	518
7	シジュウカラ	498
8	ハシボソガラス	495
9	カワウ	473
10	ダイサギ	422

●入賞者について

期間中に投稿された方のうち、観察対象種の身近な水鳥3種（ヒドリガモ、マガモ、オオバン）全て見た方10人に「サントリー特別賞（賞品：サントリーホールディングス株式会社提供のステンレス製タンブラー・クマタカ）」を、7日間毎日チェックリストを投稿した方10人に「日本野鳥の会賞（賞品：日本野鳥の会オリジナルグッズ・卓上カレンダーと今治タオルハンカチ・カワセミ）」をさしあげました。どちらも該当者多数のため、抽選の結果、各10名を当選とさせていただきます。



サントリー特別賞のタンブラー。藪内正幸氏のクマタカのデザイン（協力：藪内正幸美術館）

●オンライン講座、野外体験講座の実施

キャンペーンを前にオンラインセミナー「AIと野鳥識別対決-Merlinに挑戦」を開催したほか、11月4（土）～5（日）に我孫子市で開催されたジャパン・バードフェスティバルに出展し、ブース来訪者にeBirdと野鳥識別アプリMerlinを体験していただきました。

また、5日には、実際にアプリを使ってバードウォッチングの記録をeBirdに投稿する「eBird野外体験講座」を実施しました。講座参加者からは「アプリはインストールしていたが、使い方がわからず放置していた。教えてもらって、これから使えそう」「外に出て実際に体験しながらわからない事を聞くことができ、よかった」という感想が寄せられました。



eBird野外体験講座の様子

●パンフレット「これを読めばわかる！eBird & Merlinの使い方」を発行

キャンペーンにあわせて、eBirdの使い方を紹介する

ガイド「これを読めばわかる！eBird & Merlinの使い方」を発行しました。ガイドはホームページから自由にダウンロードできます。



←ダウンロードはこちらから



「これを読めばわかる！eBird & Merlinの使い方」

また、印刷物をご希望の方にはお送りしますので、下記まで希望部数をお知らせください。

【パンフレットお問合せ先】

Eメールにて以下の情報をお知らせください

- ◆件名：「eBirdパンフレット希望」
- ◆項目：①支部名、②お名前、③送付先住所、④電話番号、⑤メールアドレス、⑥ご希望部数
- ◆送信先：ebirdjapan@wbsj.org
- ◆担当：自然保護室 eBird担当

※Eメールでのお申し込みが難しい方は、
自然保護室 eBird担当
TEL：03-5436-2633（月～金 10時～17時）
までご連絡ください。

eBird Japanの利用者は6000人を超え、投稿されたチェックリストの数も15万件を超えました。引き続き、日々のバードウォッチングで観察された鳥の情報をeBirdにお寄せください。

次回キャンペーンは5月のバードウィーク（2024年5月10～16日）を予定しております。

（自然保護室／岡本 裕子）

■「鳥ゼミ」のご案内

本誌でもご案内してきましたとおり、当会上田恵介会長が主宰する「鳥ゼミ」について、当会も協力してオンラインにて開催しています。

日程に余裕がないご案内となっておりますが、下記のとおり開催されます。最新の研究に触れられる機会ですので、奮ってご参加ください。

はじめてのご参加を希望される方、詳細をお知りになりたい方は、下記の【メーリングリストへ登録方法】をご覧ください。

=====

【日 時】2024年1月30日(火) 18:00~19:30
【講 師】奴賀 俊光 (自然保護室)
【講演タイトル】ミユビシギの採食生態
【講演要旨】

千葉県九十九里浜でのミユビシギの生息分布と餌生物との関係についてお話しします。特に、ミユビシギによる二枚貝の非致命的捕食について、二枚貝の生態と合わせてお話しします。

=====

【「鳥ゼミ」メーリングリストの登録方法】

鳥ゼミへの参加申し込みや詳細についての問い合わせ、今後のご案内受信などのため、Eメールにて登録に必要な以下の項目をお知らせください

- ◆件 名:「鳥ゼミ ML 登録依頼」
- ◆項 目:①登録したいメールアドレス(ご記載がない場合、ご連絡いただいたメールアドレスを登録いたします)、②お名前
- ◆送信先: hogo@wbsj.org
- ◆担 当: 自然保護室 自然保護グループ 浦

(自然保護室/浦 達也)

■オンラインセミナー「風力発電による野鳥への影響および環境影響評価法とは」のご案内

風力発電事業に係る環境紛争は鳥類、特に希少猛禽類の生息地を巡って発生することが多いのですが、それは計画の規模ではなく立地選定の良し悪しなどが問題となることが分かってきました。風力発電による鳥類への影響は主にバードストライク、生息地放棄、障壁影響の2つがありますが、これらについて、陸上風力発電と洋上風力発電とに分けて解説するとともに、累積的影響評価のあり方、また、環境影響評価(アセス)が実施されても地域住民の意見が十分に反映されない、野鳥の生息が保護されるという実感を得にくいのはなぜかについて解説するセミナーを当会会員の皆様向けに、下記の要領で開催することにいたしました。皆さまのご参加をお待ちしています。

参加を希望される方は、下記の【セミナー参加方法】をご覧ください。

=====

【日 時】2024年3月1日(金) 18:30~20:00
【講 師】浦 達也(自然保護室・主任研究員)
【講演タイトル】風力発電による野鳥への影響および環境影響評価法とは
【講演要旨】

風力発電が鳥類に与える影響について陸上と洋上とに分けて解説するとともに、累積的影響評価のあり方、環境影響評価の仕組みや役割、課題等について解説いたします。

=====

【セミナー参加方法】

下記の ZOOM リンクアドレスにアクセス、または ZOOM を立ち上げ、下記の ID およびパスワードを該当箇所にご入力ください。

- ◆アクセス可能日時: 3月1日(金) 18:15~
- ◆リンクアドレス:
<https://us06web.zoom.us/j/85240870051?pwd=9QGR4kJ26S3EeOmeZjMTYLbZVqmN29.1>
- ◆ミーティング ID: 852 4087 0051
- ◆パスワード: 141815

【問い合わせ先】

自然保護室 自然保護グループ 担当: 浦
Eメール: hogo@wbsj.org

(自然保護室/浦 達也)

■総務室より

■会員数

1月5日時点の会員数は33,283人で、先月と比べ67人減少しました。

12月の入会・退会者数(表1)をみますと、入会者数は退会者数より143人少なくなっています。

12月1日付の入会者数は110人で、前年同月の入会者数131人と比べ21人減少しました。

また、12月末日付の退会者数は253人で、前年同月の退会者数224人と比べ29人増加しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 12月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	4 人	19 人
総合会員(おおぞら会員)	18 人	75 人
本部型会員(青い鳥会員)	12 人	40 人
支部型会員(赤い鳥会員)	53 人	80 人
家族会員	23 人	39 人
合計	110 人	253 人
年度累計	1,411 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（1月5日時点）

都道府県	会員数	前月比
北海道	1,571 人	2 人
青森県	213 人	-1 人
岩手県	330 人	-1 人
宮城県	521 人	-5 人
秋田県	239 人	0 人
山形県	219 人	1 人
福島県	505 人	-4 人
茨城県	832 人	-4 人
栃木県	785 人	-5 人
群馬県	581 人	-1 人
埼玉県	1,950 人	0 人
千葉県	1,457 人	-2 人
東京都	4,620 人	-12 人
神奈川県	3,116 人	-4 人
新潟県	341 人	1 人
富山県	189 人	2 人
石川県	262 人	-3 人
福井県	219 人	-1 人
山梨県	252 人	-1 人
長野県	826 人	-6 人
岐阜県	467 人	-3 人
静岡県	1,199 人	1 人
愛知県	1,552 人	-9 人
三重県	438 人	2 人
滋賀県	323 人	-1 人
京都府	797 人	-6 人
大阪府	1,882 人	-8 人
兵庫県	1,245 人	-4 人
奈良県	461 人	0 人
和歌山県	202 人	0 人
鳥取県	227 人	1 人
島根県	205 人	-3 人
岡山県	546 人	-3 人
広島県	578 人	4 人
山口県	316 人	1 人
徳島県	328 人	5 人
香川県	203 人	4 人
愛媛県	342 人	-8 人
高知県	96 人	0 人
福岡県	1,164 人	-6 人
佐賀県	215 人	1 人
長崎県	210 人	-1 人
熊本県	358 人	5 人
大分県	219 人	1 人
宮崎県	237 人	1 人
鹿児島県	320 人	-2 人
沖縄県	81 人	0 人
海外	11 人	1 人
不明	33 人	4 人
全国	33,283 人	-67 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（1月5日時点）

支部	会員数	前月比
オホーツク支部	241 人	1 人
根室支部	75 人	2 人
釧路支部	132 人	2 人
十勝支部	181 人	-1 人
旭川支部	79 人	1 人
滝川支部	37 人	0 人
道北支部	25 人	0 人
札幌支部	302 人	1 人
小樽支部	52 人	0 人
苫小牧支部	154 人	0 人
室蘭支部	123 人	-2 人
道南檜山	67 人	1 人
青森県支部	115 人	-1 人
弘前支部	108 人	0 人
秋田県支部	228 人	-1 人
山形県支部	210 人	1 人
宮古支部	68 人	0 人
もりおか	145 人	-1 人
北上支部	87 人	0 人
宮城県支部	483 人	-5 人
ふくしま	130 人	0 人
郡山支部	139 人	-2 人
白河支部	20 人	0 人
会津支部	51 人	-1 人
奥会津連合	5 人	0 人
いわき支部	90 人	0 人
福島県相双支部	13 人	0 人
南相馬	20 人	0 人
茨城県	743 人	2 人
栃木県支部	776 人	-4 人
群馬	513 人	0 人
吾妻	41 人	-2 人
埼玉	1,453 人	4 人
千葉県	894 人	3 人
東京	2,622 人	-5 人
奥多摩支部	754 人	-2 人
神奈川支部	2,015 人	-15 人
新潟県	264 人	-1 人
佐渡支部	34 人	1 人
富山	169 人	1 人
石川	241 人	-1 人
福井県	217 人	-1 人
長野支部	396 人	-3 人
軽井沢支部	152 人	2 人
諏訪支部	236 人	-2 人
木曾支部	20 人	0 人
伊那谷支部	72 人	0 人
甲府支部	186 人	1 人
富士山麓支部	52 人	1 人
東富士	57 人	0 人
沼津支部	130 人	4 人

南富士支部	214 人	1 人
南伊豆	39 人	-1 人
静岡支部	307 人	-2 人
遠江	356 人	-2 人
愛知県支部	1,185 人	-16 人
岐阜	441 人	-6 人
三重	383 人	1 人
奈良支部	396 人	-1 人
和歌山県支部	208 人	-3 人
滋賀	312 人	-4 人
京都支部	744 人	-3 人
大阪支部	1,735 人	-10 人
ひょうご	956 人	1 人
鳥取県支部	242 人	1 人
島根県支部	197 人	-1 人
岡山県支部	521 人	-3 人
広島県支部	506 人	3 人
山口県支部	298 人	2 人
香川県支部	165 人	4 人
徳島県支部	350 人	3 人
高知支部	86 人	0 人
愛媛	315 人	-7 人
北九州支部	231 人	0 人
福岡支部	525 人	-5 人
筑豊支部	214 人	-1 人
筑後支部	139 人	-2 人
佐賀県支部	280 人	2 人
長崎県支部	195 人	1 人
熊本県支部	347 人	5 人
大分県支部	205 人	1 人
宮崎県支部	228 人	2 人
かごしま県支部	296 人	-5 人
やんばる支部	47 人	0 人
西表支部	49 人	-1 人
	28,129 人	-68 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／三浦 岳志）

■令和5年度第3回評議員会（臨時）議事録

- 開催日時 令和5年12月6日（水）
午後3時05分～午後4時45分
- 開催場所 当財団会議室
東京都品川区西五反田3-9-23
丸和ビル3階
- 出席者（敬称略、五十音順）
評議員総数 9名

出席評議員 6名

糸嶺 篤人、上田 恵介、小野 泰洋、上原 治也、
河野 博子、佐賀 耕太郎

出席理事

遠藤 孝一、狩野 清貴、葉山 政治、見田 元

出席監事

新實 豊（Web会議での出席）

事務局

五十嵐 真（総務室長）、松井 華奈、林山 雅子（総務
室員）

4 議長 評議員長 上田 恵介

5 議事の経過の要領及びその結果

葉山常務理事が開会を宣言し、その後、上田恵介評議員長から挨拶があった。また、本評議員会は、Web会議システム（Zoom）を利用し行う旨が述べられ、出席者が一同に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態になっていることが確認された。引き続き、葉山常務理事より、本評議員会は定款第22条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨、報告があった。

議事録署名人については、定款第24条の規定により、出席した評議員長及びその会議において選任された1人となっており、評議員長その他、佐賀耕太郎評議員が選任され、本人も承諾し、直ちに議案の審議に入った。

6 議決事項の審議

（1）令和5（2023）年度補正予算の件

五十嵐真総務室長より、経常収益は、当初予算に比べ15,572千円増の985,145千円、また経常費用は、当初予算に比べ35,577千円増の1,077,809千円、この結果、当期一般正味財産増減額は、当初予算に比べ19,548千円悪化し、93,748千円の減額となり、期末残高は901,523千円となった。指定正味財産増減額は、当初予算に比べ1,932千円悪化し64,249千円の減額となった。その結果、期末残高は、1,175,142千円となり、両者を合わせた正味財産期末残高は、2,076,665千円となること、また、資金収支版では、当初予算とほぼ同額の当期収支差額約12,000千円減となる2023年度補正予算について、資料に基づき説明がされた。

小野泰洋評議員より、「1）経常収益（6）事業収益・物品販売事業収益」が予算時より大きく増加している点について質問がされ、五十嵐総務室長より、昨年度販売価格を値上げしたため当初予算では売上高をかたく見積もっていたが、卸販売好調のため上方修正すること、435,321千円の昨年度売上高には達しない見込であると回答がされた。

佐賀耕太郎評議員より、「2）経常費用（1）事業費・租税公課」が大きく増加していることについて質問がされ、五十嵐総務室長より、インボイス制度施行により、当会の取引先が免税事業者である場合、仕入税額控除を受けることができず、消費納税額が増えるためであると回答がされた。

（2）令和6（2024）年度事業計画及び予算の件

狩野清貴副理事長より、事業計画については、ビジョン 2030 に基づいた展開とし、公益事業部門とそれを支えるほかの各部門との連携の強化を図り、相互の連携を高め各事業の進展を図る、特に、共生推進企画室と広報室を中心に各室の連携を強化し、事業や活動の成果を基に会員や支援者、寄付等の増加に結び付ける「支援拡大サイクル」の構築をさらに進める内容であると資料に基づき説明がされた。また、予算については、資金収支ベースで収支均衡を目指し、会全体の会費、寄付、受託事業等の収入及び収益事業の収入額と利用可能な特定預金等の範囲内での支出とする、特に、豊田市自然観察の森について、次期指定管理に応募しないことが確定しており、その影響を考慮する、また、特定預金の取り崩しは計画的に行う、加えて、四大財源（会費、寄付・特定預金、受託事業、販売事業）の収支改善と利益率向上を進めるとともに、業務の効率化・省力化を進め、さらに当会の事業全体を見直して選択と集中を行う内容である旨、資料に基づき説明がされた。

上田評議員長より、ビジョン 2030 の達成度について質問がされ、狩野副理事長より、ビジョン 2030 は「1. 絶滅危惧種の保護と野鳥の生息地保全を着実にすすめている」、「2. 地域の自然が、地域の手で守られる社会づくりに貢献している」、「3. エネルギーシフトによる生物多様性の劣化を防いでいる」、「4. 自然とのふれあいを通して、自然への理解者が増えている」、「5. 次世代を育む活動が充実している」の大項目からなっており、達成度を数字で表すことは難しいが、着実に進めていると回答がされた。また、葉山常務理事より、ビジョン 2030 に基づき作成している事業並びにプロジェクトについては、達成目標と活動指標を可能な限り数値化していると説明がされた。

糸嶺篤人評議員より、「2 事業計画 (3) 戦略的な広報の実施」について質問がされ、遠藤理事長より、当会は、環境 NGO として社会の課題や問題を明らかにし実行していくことが使命である、各室が個別に行ってきた広報活動を一本化し強化することで、この当会の活動を広く社会に知っていただき、多くの方の支援につなげるという好循環が醸成できるように、また、社会から大きな信頼を得られるように、戦略的に広報を実施すると説明がされた。また、最近、寄付額が増加傾向にあり、成果が出ていると回答された。糸嶺評議員より、社会からの信頼は当会の財産である、支部の活動の支えにもなっていると意見が出された。

河野博子評議員より、他の NGO 団体同様、会員等に若年層を取り込めないことは重要な問題である、若年層向けに動画配信等、いろいろな方法を試行錯誤してはどうかと意見が出され、遠藤理事長より、「安西さんの野鳥講座」や「上田会長の野鳥相談室」等の動画配信は実施しており、多くの方にご参加いただいているが、さらに試行錯誤し、若年層を取り込んでいきたいと説明がされた。

小野評議員より、日本野鳥の会は自然保護団体であるが、バードウォッチングに係る楽しみ等、他の価値観も含めたイメージ戦略を立ててはどうかと意見が出された。

上原治也評議員より、広報活動業務は属人化されているのか、組織的なものなのかと質問がされ、遠藤理事長より、広報室が中心に業務を遂行している、今回

の意見は広報室に共有すると説明がされた。

(3) 令和 5 (2023) 年度第 2 回、第 3 回及び第 4 回理事会の結果の件

遠藤理事長より、令和 5 年度第 2 回、第 3 回及び第 4 回理事会の結果について、資料に基づき報告がされた。

佐賀評議員より、令和 5 年度第 4 回理事会の第 4 号議案「江別支部の認定取消の件」について、江別支部と同様に古くからの支部幹事等に支えられている支部が多くあると考えられる、若い方に支部幹事等の役職を担ってもらえるようにするにはどうしたらいいかを検討すべきであると意見が出された。

上田評議員長より、自然保護団体としての当会の強みの 1 つは、連携団体が全国で活動していることであると意見が出され、連携団体存続のための財団事務局からの連携団体への支援策について質問がされ、遠藤理事長より、現在、探鳥会リーダーについてはリーダーズフォーラムを実施しているが、今後は保護や調査にもそのような場を広げていきたい。今はオンラインがあるので、それを活用し、全国の連携団体が気軽に参加できるような場を増やしていければと思う、と説明された。

議長は以上をもって全部の議題を終了した旨を述べ、午後 4 時 45 分閉会を宣言し解散した。

以上の議事を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和 5 年 12 月 8 日

公益財団法人日本野鳥の会臨時評議員会
議長 上田 恵介
議事録署名人 佐賀 耕太郎

以上

(総務室／林山 雅子)

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

2024 年は新年早々、大地震や大事故が起きました。ご関係の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。こんな時でも周りを見回せば鳥たちが変わらぬ姿を見せていることが、少しでもおなぐさめになればと願っております。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2024 年 1 月号・通巻 264 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2024 年 1 月 26 日

◆担当

総務室 総務管理グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/萩原洋平/原元奈津子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org
